

造影CT検査のヨード造影剤投与に関する説明

造影剤の説明

あなたがお受けになる検査では、ヨード造影剤という検査薬を使用します。ヨード造影剤は診断の手助けのため画像に白黒の濃淡をつける検査薬で、静脈内に投与します。腎臓の機能が正常であればヨード造影剤は尿として排泄されます。時として副作用が生じることがあり、検査中や直後に起こる即時性副作用と、検査終了後しばらくして起こる遅発性副作用の二つがあります。

副作用の生じる可能性は、アレルギー体質の方が、そうでない方と比べ数倍多いとされています。また、以前ヨード造影剤で具合が悪くなったことがある方も副作用の出現率が高いとされています。腎臓の機能の悪い方がこのヨード造影剤を使用するとさらに悪化する可能性があります。また、吸入や内服が必要な喘息(ぜんそく)の方にはこの薬を原則的に使用しませんが、医師の厳重な監視の下で使用する場合もあります。該当する方は検査前に必ず医師または看護師、診療放射線技師にお伝えください。

★即時性副作用

軽い副作用は、吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、くしゃみ、発疹、注射部位の痛みなどです。これらは多くが治療を要さないか、1～2回の簡単な投薬や注射で回復するものです。このようなことが起こる確率は、約100人当たり5人以下(5%以下)です。

重い副作用は、呼吸困難、意識障害、血圧低下、腎不全などです。これらは入院治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このような確率は、約6000人～9000人当たり1人(0.01～0.02%)です。症状・体質によっては約10～20万人当たり1人の割合(0.0005～0.001%)で、死亡する場合があります。

即時性副作用が起こった場合は、スタッフが至急対応します。

★遅発性副作用

検査終了後、しばらくして、発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ感、咳、冷や汗、動悸、脱力感、めまいなどが現れることがあります。このような副作用は検査後10分以内に起こることがほとんどですが、まれに、数時間から数日後(多くは2日以内)に起こることがあります。

病院外で副作用と思われる上記症状が起こった場合には、

当院救急外来(電話 029-851-3511(代表)) までご連絡ください。

その際、いつヨード造影剤を注射したかをお話ください。

● ヨード造影剤を注射するときには、体が熱くなることがありますが、ヨード造影剤による一時的な刺激であり心配ありません。また注射部位の痛みが数日間持続する場合があります。

● 勢いよくヨード造影剤を注入するために、血管外にヨード造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射した部位がはれて、痛みを伴う事もあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもあります。

● 検査前の絶食の指示が出る場合がありますが、水のみ飲んでいただいて結構です。検査後は、他の検査の指示がなければ、特に生活上の制限はありません。ヨード造影剤が尿として早く排泄されるように少し多めの水分を取ってください。

● 授乳中の方は、48 時間は授乳をさけてください。

医師はヨード造影剤を使用する利益と不利益を考えた上で、造影剤の使用があなたにとって利益になると判断した場合、造影検査を勧めています。

安全に造影検査を行うために、**別紙の間診票および同意書**にご記入ください。問診表の内容によっては、ヨード造影剤を使用しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。